

物理への興味から
モノづくりに熱中

——佐藤製作所の創業は終戦後すぐだったそうですね。
佐藤…そうですね。私の父が昭和21年に創業しました。父は物理学が好きで、学者として研究に没頭したかったのですが、家庭環境が許さず自分で会社を創業しました。半導体、整流器、パン焼き器などを作ったりしているうちに、大手企業の仕事を受けられるまでになりました。

——小さい頃からモノづくりが好きだったのですか？
佐藤…好きでしたね。工場の中で育ったようなもので、工場が遊び場、勝手に部品を持ち出して怒られていたね。小さい頃からモノの原理を調べるのが好きで、電気製品などを触っていました。中学生のときに「壊れたラジオ、直してあげる」と質屋に言って、もらってきたこともあり。不思議なことに、いじっている間に本当に直るんですよ(笑)。

——佐藤さんも物理学の研究をしたかったのですか？
佐藤…私も父と同じように物理が好きで、高校大学とも物理を専攻して、



コミュニケーションが活発な社内

神がある会社。技術に見込みがあると判断すれば相当な投資をします。もともと挑戦的な社風なんです。社員には大きな権限を与えていますし、独創性を大切にしています。だから、弊社には独自の技術がたくさんあるのです。

——IT化も早くから取りかかったそうですね。
佐藤…10年以上前からパソコンを導入しており、現在は100台以上あり全工場ネットワーク化して生産効率に役立っています。そのほとんどはCPUボードやハードディスクなどの部品を別々に購入して組み立てた自作パソコンです。

——それはスゴイ！佐藤さんがパソコンを自作したのですか？
佐藤…はい。3年前までは片手間に自作していました。今では女子社員が挑戦してくれていますよ。社内でする生産管理ソフト、設計開発用ソフト、事務ソフト、データベース、顧客要望のデータベース業務ソフトなどさまざまなプログラムも私が開発しました。やりたがり屋なんです(笑)。だから、いろいろなことに挑戦する人をむやみに止めたりはしません。なんでも挑戦すること、その方が楽しいですし、自分が成長することができます。そして、独創性や独創性ということからは、挑戦することからしか生まれません。



自分の限界を
超える努力をした時に
独創性が生まれる。
新しいモノを作るために、
チャレンジしかない。

佐藤…自動封入封緘機など、搬送機分野で日本一になるという目標を掲げています。また、これまで蓄積した独自技術を組み合わせ、新たな事業を興して多角的な経営を目指します。時代の変化に素早く対応できる体制にして、スピードでパワフルな経営を実践していきます。そのために、経営センスと意欲のある



博士になりたいとも思っていました。しかし、産業界に貢献したく製造業の道に進むことを決めました。

——会社を継ぐと決めたのですか？
佐藤…そうですね。そのために大学を出てから大型モーター関連の会社に就職して、3年間ほど修行してから佐藤製作所に入ったのです。産業機器の原子吸光分析装置の組立調

——佐藤さんの仕事に対する姿勢を支えているものは何ですか？
佐藤…私は日本にモノづくりを残したい。近年は大手企業が海外に生産拠点を置くようになり、日本でモノづくりをする機会が減っています。しかし、「自動化すれば日本でも対応できる」というのが私の持論です。自動化でコストを削減できるし、品質も向上させられる。そうすれば生産拠点を移す必要はなくなるものもあるでしょう。

経営の多角化と
海外展開を進めたい

——佐藤さんの仕事に対する姿勢を支えているものは何ですか？
佐藤…私は日本にモノづくりを残したい。近年は大手企業が海外に生産拠点を置くようになり、日本でモノづくりをする機会が減っています。しかし、「自動化すれば日本でも対応できる」というのが私の持論です。自動化でコストを削減できるし、品質も向上させられる。そうすれば生産拠点を移す必要はなくなるものもあるでしょう。

——今後のビジョンを教えてください。
佐藤…自動封入封緘機など、搬送機分野で日本一になるという目標を掲げています。

〈チャレンジ精神と独創性で搬送機器分野ナンバーワンを目指す〉

日本のモノづくりを
支えたい



佐藤製作所 代表取締役社長
佐藤 嘉高

さとう よしたか

「モノを作らずにはいられない」、生まれながらのエンジニア、佐藤嘉高。物理の知識をベースに開発、設計、加工、製造、プログラミングなど全てをこなす社長だ。佐藤が率いる佐藤製作所は、チャレンジ精神と独創性を旗印に会社一丸となってモノづくりに邁進している。「日本のモノづくりを自動化によって支えたい」と静かに語る佐藤には、モノづくりにかける情熱が溢れていた。



——最後に、学生へのアドバイスをお願いします。
佐藤…苦労は買ってでもすべき。どんなことでも新しいことに挑戦することは自分の糧になります。チャレンジして達成感を味わうことができれば、それが一番よい経験となるでしょう。スポーツでもいっし、勉強でも何でもいっし。失敗してもいい。チャンスがあれば積極的に挑戦する。その経験が、きつと後で役に立ちます。

——社長に就任したのはいつですか？
佐藤…1994年の会社の業績がドンドン底の頃に社長になりました。ちょうどバブルが崩壊した頃で、産業機

——自動封入封緘機とはどんなものですか？
佐藤…通信販売やクレジットカードの請求書などの郵便が各家庭に届きますが、自動封入封緘機は、それらの印刷物を自動的に折りたたんで封筒に入れ、封をする機械です。クレジット会社や金融関係などで使用されています。

The Management Data File
経営者データファイル

お名前	佐藤 嘉高
※「嘉高」は通称名。会社登記上は「嘉孝」。	
生年月日	1951年8月31日 京都府 生まれ
身長	178cm
体重	70.5kg
平均睡眠時間	4時間
平均起床時間	午前5時30分

——海外での仕事が多いそうですね。
佐藤…この規模の会社では珍しいと思いますが、社員は海外を飛び回っています。生産の自動化機器は世界中で求められていますので、社員は製品の据付やメンテナンスなどでアジア、欧米に出張しています。

——挑戦することで、独自技術を蓄積
佐藤…一言で言うと、チャレンジ精神

加工、搬送などの技術を組み合わせています。弊社が開発した機械は、1時間で最大18000通処理できるスピードと正確さがあります。これらの技術を他の生産自動化機器にも応用しているのです。

会社概要 株式会社 佐藤製作所

所在地 ● 京都市南区久世東土川町298-3
創業 ● 1946年(昭和21年)5月
設立 ● 1956年(昭和31年)12月
資本金 ● 2,586万円
事業内容 ● 精密機器製造、自動化機器開発設計製造、航空機器のメンテナンスなど
社員数 ● 180名
URL ● <http://www.sato-web.co.jp/mobile>
就職情報はコチラ

会社HPは
コチラ



Profile 佐藤 嘉高 (さとう よしたか)

1951年、京都府生まれ。近畿大学工学部物理数学科を卒業後、大型モーター関連会社に3年間勤務。1977年に佐藤製作所に入社し、1987年に航空機器関係の事業部長に就任。1994年、代表取締役社長に就任。リスク回避のため顧客開拓推進とITの導入による生産の効率化、不良資産の償却、独自の技術開発と水平展開で成長に導く。今後は、海外への展開と搬送機器分野で日本一になることを目指している。